

感動！ 庭園散策で植物から「生きる」喜び発見

棚木 英一 福島県郡山市 七十八歳

この程、町の公民館事業で「緑水苑」を訪ねた。広大な庭園の池の周辺には杜若かきつばたや紫陽花が咲き競っていた。池には睡蓮が咲き大きな魚が悠々と泳いでいる。自然の風情の中で咲く花を愛でる人たちで賑わっていた。それぞれが思いのままの散策である。

静かな散策路の頃合には緑陰やあづまやがありしばしの憩いを楽しむことができる。ここは、四季の移ろいを年中味わえる「花園」ではあるまいか・・・。ケガで杖頼りの私は、平坦地の「万葉の庭・植物園」を散策した。万葉集に歌われた植物の最北限であるとか。ここで自然の摂理の中で生きる植物を見つけてしばし感動に浸った。

苑内最大級の大木「桂」の幹半ばに小さな窪みがあった。なんとその窪みに自然のとりなしで生えたもみじが根付き成長していた。また地面の小岩の小さな割れ目にも可憐な花一輪のつつじともみじが活き活きと根付いていた。地面で育つはずの植物が大木やチョロチョロ流れるせせらぎの小岩の割れ目の過酷な自然条件の中で元気に生きているのである。こんな小さな植物から「生きる」喜びと感動を味わったすばらしいひと時となった。日々変化する風情であるが、訪れる人を元気づける「四季の里」があった。ケガを癒し、いつか再訪したときに「あのつつじともみじは元気かなあ」という楽しみもできた。さらなる「生」への希望が湧く庭園散策だった。